

## 第 388 号

令和6年11月7日発行

- 巻頭言
- 第65回北海道中学校長会  
研究大会十勝・帯広大会
- 論文
- 文芸
- さりながら
- 前期情報・事務局日誌



生命の源「阿寒湖と雄阿寒岳」 釧路市立阿寒湖義務教育学校 高橋 帝寿



## 「学びの転換」に思うこと

北海道中学校長会 副会長 能戸 貴英

9月27日、28日に第65回北海道中学校長会 十勝・帯広大会が開催され、多くの学びを得ることができた充実した大会となりました。特に分科会において、昨年度の小樽大会に引き続き行われた対面での意見交流は、大変貴重な機会となったことと思います。十勝・帯広大会実行委員会の皆様に改めて感謝申し上げます。

全日中会長情勢報告や文部科学省講話、記念講演では、多くの情報と御示唆をいただきました。特に文部科学省講話では、データに基づいた考察により今とこれからの学校教育に求められていることをお示しいただきました。その中でも、PISA 調査の「自律学習を行う自信」で日本は37国中34位であること、将来は「自分で何をするか決める仕事」が残り「人から言われてやる仕事」はAIに取って代わられること等から、学校教育のアップデートが求められていることを、「令和の日本型学校教育」と「GIGAの推進」が必須であることの明確な根拠として、お話しいただいたことが印象に残っています。

各学校では、「主体的に学習に取り組む態度」の育成や「子供を主語にした学び」についての授業改善が進んでいると思われます。本校では、授業改善と共に重点課題の一

つとなっているのが、家庭学習です。今年度から、段階的に宿題を縮減していく「主体的に取り組む家庭学習の推進」に取り組んでいます。数年かけて、Google クラウドを活用した教科通信による「家庭学習のすすめ」や生徒用WEBサイトとGmailによる「主体的な学びの支援」を計画的に実施していく予定です。不登校生徒や多様なニーズにも対応が可能になります。今年度の夏休みも大幅な宿題の縮減を行いました。保護者からは「勉強しなくなる」「親には指導できない」等の声も聴かれました。丁寧に推進し、着実に主体的な学びを獲得させたいと考えています。

従来の免許更新制度がなくなり、研修履歴の記録による主体的な教員研修となりました。「教職員を主語にした研修」を模索し、「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の育成が求められています。校長会として、まずは求められる校長の資質・能力であるマネジメント力・アセスメント・ファシリテーション等の向上を目指し、研修の充実、校長同士の学び合い等、「学びの転換」を意識しながら、先を見て学び続ける校長会でありたいと思っています。

# 第65回北海道中学校長会研究大会 十勝・帯広大会



## 第65回研究大会挨拶

十勝・帯広大会実行委員長 久保睦則



広大で肥沃な大地と恵まれた気候、先進的な技術導入や機械化などによる日本有数の農業地帯、また、美しい自然や豊かな食文化発信基地十勝・帯広に、全道各地よりようこそお越し下さいました。

思い起こせば、平成30年9月、胆振東部地震により、大会運営も危ぶまれた中、このようなときだからこそ困難に立ち向かっていくための第一歩となる未来につながる大会となるよう、「チーム道中」として熱い思いでお集まりいただいた十勝・帯広大会の開催から6年、第65回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会をふたたび開催できますことは、私たちにとって大きな喜びであり心より歓迎を申し上げます。

また、本日は、公務御多用のところ、北海道教育庁十勝教育局局長 新山知邦様、十勝管内教育委員会連絡協議会会長 加賀学様、全日本中学校長会会長 青海正様をはじめ、多くの御来賓の皆様のご御臨席を賜り、開会できますことに心より感謝を申し上げます。

さて、今日、我が国では、人口減少・高齢化による労働力不足、異常気象などの環境問題、持続可能な社会の構築などの諸課題を抱え、一方ではAIやIOTの急速な進展をはじめとした不透明な時代に直

面し、「変動性」「不確実性」「複雑性」「曖昧性」などへの対応が求められています。

そのような中で、私たち校長は、一人一人の生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材を育成しなければなりません。

本大会は、第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会の成果を受け継ぎながら、基本主題『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』による4か年継続研究の4年次にあたる研究大会となります。副主題を『十勝の大地から 新しい時代を生き抜く子供を育む 確かな学校経営の推進』とし、全体会における確かな情報の確保と、5つの分科会における研究主題や視点に沿った活発な研究協議により、大きな成果を期待しているところであります。

本研究大会の開催に向け、これまで実行委員会では、十勝小・中校長会、帯広市校長会の中学校会員を中心に小学校会員の支援も受けながら、両校長会が一つになって準備を進めてまいりましたが、運営上の不備や行き届かない面もあろうかと存じます。その際は、皆様の御理解と大会参加への熱意で補っていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本研究大会開催にあたり、多くの御指導と御支援を賜りました北海道教育委員会、十勝管内教育委員会連絡協議会、十勝管内各市町村教育委員会、その他関係機関の皆様にお礼を申し上げます。大会実行委員会を代表しての挨拶とさせていただきます。

2日間、よろしくお願いいたします。

## 提言の概要

## 第1分科会

## 司会を終えて

## 「社会に開かれた教育課程」 の実現

美瑛町立美瑛中学校 金山達也



### 1 はじめに

上川中部地区の中学校では、人間としての調和のとれた児童生徒の育成を目指し、地域の願いや実態に応じて、育成を目指す資質・能力の重点化を柱として、教育課程の中に位置付け、取組を進めている。

本提言では、「生徒の発達や特性」と「地域の願いや実態」のそれぞれに応じた教育課程の編成・実施に、校長のリーダーシップを発揮し取り組んでいる実践の紹介があった。

### 2 研究内容

研究の視点①では、美瑛町の「特別ではない特別支援教育」をスローガンに、全ての子供に焦点をあて、自立に向けた力を年齢に応じて育成することを目指した教育活動の推進が紹介された。

研究の視点②では、上川中部地区の取組として美瑛町を含む5町の実践が紹介された。それぞれの町において、教育委員会や小・中学校の連携のもと、学校・地域の実態に即した特色ある実践を知ることができた。

### 3 研究の成果と課題

- 教育課程の編成では、地域の環境や人材を活かし、効果的な教育を行うことができるよう、どの町でも取組に工夫がなされている。
- 上川中部地区の各町でも、地域の教育資源を十分に活用できるよう校長がリーダーシップを発揮し、教育課程の見直しや管理を行い、特色ある教育を行っている。
- 美瑛町においては、学校間連携部会に求められる役割が多岐に渡ることから、運営が煩雑にならないよう焦点を絞ることや教育課程の編成に影響が出ないように、精査して取組を進める必要がある。
- 上川中部地区の各町では、地域の教育資源や地域人材との情報共有を図り、これまで以上に持続可能な教育課程の編成に努めなければならない。

### <研究の視点>

人間として調和のとれた育成を目指す教育糧の編成・実施

- ①生徒の心身の発達の段階や特性の把握と教育課程への反映
- ②学校や地域の実態に即した適切な教育課程の編成・実施

鷹栖町立鷹栖中学校 本田明路  
美瑛町立美馬牛中学校 佐藤雅輝

第1分科会では、上川中部地区の取組について提言発表があり、その後、討議の柱に沿って、各地区・各学校の取組について実践交流や自校の課題解決につながる活発なグループ討議が行われた。

視点①について、各学校での特別支援教育の取組や小中・中高間の連携、義務教育学校内での協力体制の構築が必要であることが話し合われた。また、地区及び市町村によって就学指導の判定会議のあり方の違いを交流することもできた。さらに、学びをつなげ、子供や保護者の困り感を助けるために、校長のリーダーシップが重要であるとの考えが示された。

視点②について、学校や地域の実態を踏まえ、地域人材の活用方法、コミュニティ・スクールのあり方、部活動の地域移行など様々な課題があげられた。今の子供たちにはコミュニケーション能力の育成が必要なため、子供を取り巻く大人と関わる機会を増やすとともに、教員自身がコミュニケーション能力を向上させる必要があることも示された。

助言者の北海道教育庁教育指導監 西口昌司氏から、教育課程の定義についての確認があった。さらに、誰一人取り残さない教育を推し進める上で、「児童生徒の心身の発達に応じ、全ての子供に焦点を当てること」及び「全ての校長がその重責を認識すること」の必要性が示された。

最後に、校長の職能向上として、「有能なリーダーほど人のために時間を割き、本物の気遣いを示す」という御示唆をいただいた。そのような姿勢が職員の心理的安全性に満ちた働きがいのある職場づくりにつながることで、そして、そのような職員がいる学校は、子供たちの成長を深く実感できる学校であり、保護者・地域と深い信頼関係で結ばれた学校経営につながるとの御助言いただき分科会を終了した。



## 提言の概要

## 第2分科会

## 司会を終えて

## 新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実

帯広市立川西中学校 村上達也



### 1 はじめに

帯広市中学校長会は、「ふるさとに学び、新しい時代をつくる たくましい人間を育てる中学校教育」を研究主題として、毎月、定期研修会を開催し、組織を機能させながら地区の教育課題や経営課題の解決及び職能向上に努めている。

具体的には、研修部を中心に「教育課程委員会」「生徒指導委員会」「学校経営委員会」を組織し、道中研分科会の研究主題及び研究の視点と連動した研究を行い、毎年、「帯広市校長会研究協議会」「十勝管内中高特支連絡協議会」「十勝帯広校長会教育経営・法制研修会」において提言発表を行っている。

その他、「学校経営基礎研修」「とからスクールリーダー育成セミナー」の実施による採用校長及びミドルリーダーの育成、帯広市教育研究会校長部会における共同研究、研究紀要の発行などを行っている。

### 2 研究の内容

本研究は、4カ年計画により、上記研究主題のもと「地域に根ざした特色ある教育活動の推進」について、帯広らしい教育や本市教育の特色である「おびひろ市民学」と「エリア・ファミリー」を2本の柱として整理し、アンケートをもとに各校の特色ある取組等の交流・協議を深め、学校経営の充実につながる、校長のあるべき姿（役割）を追求した。

### 3 研究の成果と課題

#### (1)市内各校の取組状況の交流より

- 各種データに基づく教育課程編成と検証改善サイクルを全校で確立している。
- 地域の外部資源を活用した指導計画の作成については、2割程度の学校が課題を感じている。
- 近隣小学校との全国学力・学習状況調査の分析結果の共有を全校で行っている。
- 近隣小学校との教育課程の接続、教育課程に関する共通の取組については、2割程度の学校で課題を感

### <研究の視点>

地域に根ざした特色ある教育活動の推進

- ①地域に根ざした教育力を活用した学習習慣の確立と充実
- ②小学校と中学校との連携や小中一貫教育を目指した学力向上

帯広市立緑園中学校 大泉昭人  
帯広市立八千代中学校 嘉藤貴充

第2分科会では、帯広市中学校長会の取組を基調提言として「研究の視点①と②」を討議の柱に据え、6グループで協議を行った。

提言への質問、その後の協議でも各地区・学校の実情に応じた具体的な実践交流が活発に行われ、自校の課題解決につながる取組が話し合われた。

助言者の北海道立教育研究所人材育成部長 成田仁氏からは、「これからの時代に求められる資質・能力」に基づき、9年間を見通した教育課程を教科横断的に、地域と一緒に取り組むことの重要性について御助言いただいた。



じている。

- (2)本市教育の取組（「おびひろ市民学」「エリア・ファミリー」）による整理より
- 地域人材との直接的な対話を通じた学び、連続性と系統性に配慮した学びにより、学習意欲の醸成や学びに向かう姿勢の涵養に寄与し、学習習慣の確立・学力向上に成果が見られた。
- 学校を一層地域に開く必要がある。また、大空学園義務教育学校の実践をもとに研究を進め、学校種間の段差を乗り越える共通理解が必要である。
- (3)校長のあるべき姿（役割）について  
校長には、地域の教育力の活用や小中一貫の取組を教育課程に取り入れ、教育活動の質を高める「組織づくり」「人材育成」が求められる。具体的には、組織マネジメントを推進するファシリテーション能力や、エリア全教職員のカリキュラム・マネジメントへの参画を推進するリーダーシップが必要である。本市では、各校の地域の教育資源を活用した取組を後押しする「おびひろスクールラボ」が今年度より開始され、課題解決の好機としたい。

## 提言の概要

## 第3分科会

## 司会を終えて

豊かな心と健やかな  
体を育む教育の充実

函館市立桔梗中学校 池田浩司



## 1 はじめに

函館市中学校長会では、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けて、月1回の定例研修会を開催し、組織を機能させ、一丸となって地区の教育課題や経営課題の解決に努めている。

中でも、要因が複雑化する不登校生徒や教育的支援を必要とする生徒数の増加への対応、望ましい人間関係づくりを大きな課題と捉え、課題解決に向けた取組を計画的に進めてきた。

## 2 研究内容

不登校やいじめ等、多種多様な生徒指導の課題に対して各校の実態や取組事例を交流し、対応してきた。研究推進にあたり、全国学力・学習状況調査を分析・活用し、「教師が育てる学校から生徒が育つ学校への転換」の取組を進めてきた。

調査の結果と考察を共有し、「自己肯定感の向上」「生徒同士・教師と生徒の信頼関係の向上」を実践上の視点とした取組を行った。

多くの学校で校内に別室登校生徒用として「サポートルーム」を設置している。サポートルームを担当する不登校生徒支援非常勤講師が派遣されており、函館市教育委員会と連携した取組を進めている。

## 3 研究の成果と課題

- 「教師が育てる学校から生徒が育つ学校」への教育活動の転換を共通目的とし、プロアクティブな取組を進めた。
- 教育委員会との連携のもと、不登校生徒支援非常勤講師の効果的な活用や、様々な教職員が共通理解をもって関わることで、生徒との信頼関係構築や居場所・環境づくりに大きく貢献した。
- キャリア学習では、保護者・地域関係者へ向けた発表を行い、他からの評価や承認を受けることで一人一人の自己肯定感の向上につながった。
- 異学年交流や生徒会による主体的な活動により、リーダー中心の自治的な活動が促進され、主体的

## ＜研究の視点＞

自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実

- ①不登校やいじめ問題、命を大切にする指導への組織的な対応の在り方
- ②家庭や地域社会及び関係機関、専門家等との連携・協力を密にした生徒指導の推進

函館市立巴中学校 阿部真之  
函館市立鱒川中学校 阿蘇一貴

第3分科会では、函館市中学校長会の取組を提言として、研究の視点①②を柱として8グループに分かれ、各地区や各学校の実態や実践を交流し討議を行った。今後の学校経営に資する有意義なものとなった。

助言者の北海道教育庁十勝教育局義務教育指導監 館田真氏から、各校実践や関係機関連携、校長会（組織）としてのアセスメントにもとづく各校でのリーダーシップ等の重要性と、今後に向けて①「目的」・「目標」・「手段」の再整理②校内の合意形成③アセスメント能力とファシリテーション能力の発揮④カリキュラム・マネジメント⑤検証改善サイクルについて御助言いただき、分科会を終了した。



に考えていこうとする生徒が増えてきた。

- キャリア教育の充実に向け、地域資源・人材の活用や外部機関との連携やさらなる取組内容の開発が必要である。
- 異学年交流の推進に向け、生徒同士・教師と生徒の信頼関係向上等、学校規模による取組の工夫が必要である。
- CS等も活用し、各校の取組をさらに保護者や地域関係者を巻き込んで実践していく必要がある。
- 不登校支援のための体制を一層充実させるため、教育委員会との連携を強化していく必要がある。

## 提言の概要

## 第4分科会

## 司会を終えて

## 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成と働き方改革の推進

小樽市立望洋台中学校 山本俊次



### 1 はじめに

小樽市校長会では、各校の実践交流と校内組織の機能化の成果を活かし、自校の課題にあった働き方改革を進め、小樽市小中学校全体の業務改善に役立てるための取組を進めている。

研修の推進に当たっては、「自走と共走」のテーマのもと、「北海道教育推進計画」「小樽市教育推進計画」「教育行政執行方針」に基づき、重点目標を①学校組織の機能化②業務改善の推進③小中一貫教育の推進④人材育成の4観点で取り組んでいる。

### 2 研究内容

(1)ワークライフバランスを意識した働き方改革と教職員の意識改革【柱1】

- ①人材育成
- ②小中一貫教育の推進
- ③部活動改革

(2)働き方改革を推進する組織運営体制の見直しと校長のマネジメント【柱2】

- ①業務改善の推進

### 3 研究の成果

- 人材育成を推進したことでミドルリーダーの意識の向上が見られ、各学校での経営参画、教務主任の機能化などの成果が表れてきている。
- 業務改善を推進したことで、各職の超過勤務時間は、月平均で約7時間の縮減が図られている。また、各職において、4月の超過勤務が多いことから、校務支援システムの整備は大きな追い風になると考えている。
- 業務改善するための統一した取組により、ミドルリーダーの意識向上とともに組織の機能化が図られてきている。

### <研究の視点>

勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実

- ①ワークライフバランスを意識した働き方の推進と教職員の意識改革
- ②働き方改革を推進する組織運営体制の見直しと校長のマネジメント

小樽市立潮見台中学校 佐川聖明  
小樽市立忍路中学校 本庄有希子

第4分科会では、小樽市中学校長会の取組について提言発表があり、その後、討議の柱に沿って各地区・各学校の取組について実践交流や自校の課題解決につながる活発なグループ協議が行われた。

助言者の北海道教育庁釧路教育局義務教育指導監小川一法氏からは、提言及び協議の柱それぞれに対して、次の御助言をいただいた。

【提言について】今回の提言から、学校における働き方改革を「人材育成」や「小中一貫教育の推進」とセットで捉え、学校運営との関わりを意識した取組を推進していること、また、小樽市校長会として組織的に取組を推進するとともに、行政との連携を意識していることが参考になった。働き方改革を進めるには①学校経営と一体的に進める②プロセスを理解し丁寧に進める③組織という意識を高め学校全体で改革を進めることがポイントであるということをお助言いただいた。

【柱1について】働き方改革の今後の充実に向けて、教職員の意識を高めるという観点から①学校経営方針に働き方改革の視点を明確に位置付ける②ストレスチェック等を活用し、教職員の「働きやすさ」や「働きがい」の意識の変化を把握する③人事評価の面談等の機会を活用し、効率的かつ効果的な業務の進め方について一緒に考える④教職員に主体者意識をもたせる⑤マネジメントサイクルを意識することが大切であるということをお助言いただいた。

【柱2について】学校運営体制の見直しの観点からは、①組織的な学校運営を意識し、事務職員を含めた業務内容や業務分担の見直しを不断に進め、教頭の業務負担も考慮しながら校内体制を整備する②教職員との対話を意識し、学校運営への参画意識を醸成するとともに、教頭業務の分散化を図り、ミドルリーダーが機能する学校組織体制を整備する③学校行事と教科等の関連性を見直し、準備・運営の簡素化、省力化など、学校行事の教育的価値を検討することが必要であるということをお助言いただいた。



## 提言の概要

## 第5分科会

## 司会を終えて

家庭・地域や校種間における  
連携・協働の推進

別海町立上西春別中学校 蝦名武宣



## 1 はじめに

根室管内では、令和3年度から「地域や関係機関等との連携による学校経営の充実を目指した取組の推進」という視点に基づき研究を継続してきた。管内では、すべての小・中・義務教育学校にコミュニティ・スクールが導入されており、道中の研究主題設定の理由や様々な先行研究を踏まえ、「地域とともにある学校」への転換を図るべく取組を進めてきた。

## 2 研究内容

当管内研究第1分科会では、道中第5分科会の研究とリンクさせ、特に令和3年度からは研究課題を「家庭・地域や校種間における連携・協働の推進における校長の在り方」とし、次の2つの視点で研究を進めてきた。

- ①地域や関係機関等との連携による学校経営の充実を目指した取組の推進
- ②教職員の意識改革、関係機関と連携した人材育成による指導力の向上を目指した取組の推進

## 3 研究の成果と課題

学校経営の充実には、次の3点が必要であることが明らかになった。

- CSの活動を充実させつつ体制の見直しを図り、学校との連携を強化すること。
- 「地域とともにある学校」を再認識し、学校経営方針の地域への丁寧な説明とともに、地域連携・協働、地域人材の活用が重要であること。
- 保幼小中の連携充実など、異校種間連携の充実と研修を通して、学校内外との連携を図ること。

また、連携・協働の一定の効果が上がりつつも、次の2点が課題として挙げられる。

- 連携・協働の体制づくりが学力向上や授業改善（改革）としての成果に表れていないこと。
- 地域との連携・協働の推進についての改善の余地があること。

## ＜研究の視点＞

学校の教育活動と関係機関等と連携した学校経営

①地域や関係機関等との連携による学校経営の充実

②教職員の意識改革と関係機関と連携した人材育成による指導力の向上

別海町立野付中学校 吉光寺 勝己  
別海町立西春別中学校 綾野 正巳

第5分科会では、根室地区校長会の基調提言をもとに、提言内容の交流と質疑応答を踏まえ、研究の視点①②を柱に9グループで協議を行った。

質疑応答では、地域人材の活用、CSの部会構成や構成員及び会議の回数などについての関心が高かった。なお、地域人材を生かし切れていない点があることについては、コンテンツベースに陥らぬよう留意しているためであるとの説明があった。

また、協議では、基調提言をもとに、各地域における特色を生かした活動の工夫や、複数の小学校とともに一体感をもって推進していくことの難しさについての話題が多く挙げられていた。さらに、教育委員会や福祉部局等、行政との連携や大学との連携の有効性や課題についての情報交流も行われていた。

指導助言については、北海道教育庁根室教育局義務教育指導監 齋藤征志氏から、校長が積極的に行動することによって地域住民に当事者意識を持たせることの重要性について指摘いただいた。特に、学校の姿勢として「お願いベース」が多くなりがちなことから、地域のニーズや意識などを適切に把握して改善を図り、地域が自走する信頼関係を築く必要があること、「地域で目指す15歳の姿」を共有することによって、連携・協働を成果につなげる実効性を持たせることについての必要性を御指導いただいた。

さらに、地域全体で目的やビジョンを共有することの好事例として、園・小・中・高が一貫して地域における教育活動を推進している根室管内標津町のプログラムを御紹介いただいた。

また、校長が一般教職員も含めて一緒に考える環境を整備し、様々な関係機関と連携しながら「熟議」を展開することの有効性なども御助言いただき、地域と学校のウェルビーイングの実現に努めていくことの重要性を強く認識できる有意義な分科会となった。



論文

学校全体で取り組む学びの環境づくり

～他者理解・相互理解・自己有用感を高める活動の充実～

旭川市立中央中学校 工藤 亘

1 はじめに

旭川市における小・中学校の適正配置計画に基づき、市内中心部にある3中学校(常盤、聖園、北都)を統合し、新たな中学校を開設し、適正な学校環境を整えることとなった。そして、旭川市教育委員会、関係地域、関係小中学校、関係小中学校PTA等の「子供のために」という熱い思いが結集され、平成27年4月に旭川市立中央中学校が開校した。今年度で10周年を迎える。

開設までの道のりは、決して平坦なものではなかった。紆余曲折を経ながら、少しずつ「中央中学校」らしさが生まれてきた。そして、保護者、地域の理解を得ながら、校訓「人として」を意識して教育活動を推進している。

現在は、「話し合い活動」「授業スタンダード」「学級活動スタンダード」を軸に、子供たちの学びの充実を図っている。

2 話し合い活動

キーワードは「意図的」。学級(教科)担任が、あえてそうすることが重要であると捉えている。

『話し合い活動』を通して育てたい人間性

- ①多様な人と関わること(相互コミュニケーションの促進)
- ②集団の中で、互いの特性等を理解し合えること(相互理解)
- ③多様な仲間が一つの目標に向かって取り組めること(団結)



- ☆学級には、自分の居場所があると感じるようになる。
- ☆どんな級友も認め、受け入れられるようになる。
- ☆誰かを侵害しようとしなくなる。
- ☆誰かから侵害を受けている、と感じないようになる。
- ☆自己有用感が高まる。

基本的な話し合いのルールを定め、話し合い活動の基盤づくり、人間関係の形成において、最も効果の高い時期に集中的に年間数時間、位置付けている。

3 授業スタンダード

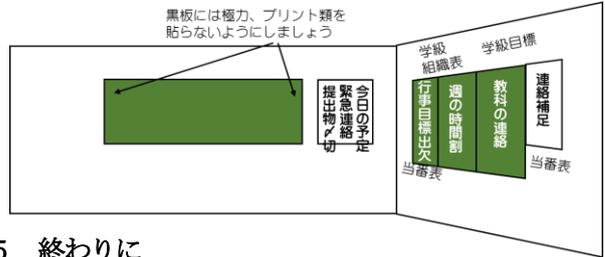
授業スタンダードとして、展開の①+②+⑤または⑥(もしくは両方)を行うこと、「学習の流れマグネットシート」を使用すること、この2つを最低限毎時間、全教科で取り組むことにしている。

基本的な展開	内容	学習の流れ マグネットシート	留意点
①課題の提示 目標の提示	●本時の学習課題、目標を提示する。	課題 目標	◎毎時間 「今日の課題は、○○だよ」「ママが目標だよ」
②学習の流れの 説明 (1 課題のシナリオを説明する)	●新しい単元に入るとき…単元全体の学習の内容、身に付ける力を最初の時間に説明する。 ●一単元時間の授業では…本時の学習の流れを説明する。		◎毎時間 「今日は○○をして、○○をやって、☆☆をやるよ」
学習指導	一単元時間内の必要なタイミングで適宜指導		
③自力解決	●自分一人で学習課題に向き合い、思考・判断・表現する場面の設定。	考えよう 問題	◎学習内容による
④学び合い 集団解決	●他の考えと比較・検討し、自分の考えを深める場面の設定。	話し合い	◎学習内容による
⑤本時の学習 のまとめ	●学級全体で共有する。	まとめ	◎毎時間 「今日は、課題の○○のために、○○をやって☆☆をやったよ」
⑥授業の 振り返り	●学んだことを自分の言葉で振り返る。自己評価。	振り返り	◎毎時間 「今日の学習の自己評価をしよう」

また、本校では、最低限取り組む学習規律(2分前着席、聴く態度等)も定めている。こうした授業スタンダードと学習規律を定着させ、安心して学べる環境を整えている。

4 学級活動スタンダード

新年度になるたびに、学年ごとに新しくルールを決める手間を省き、生徒にとって、進級したときでも、「やり方は一つ」であるほうがわかりやすいなどの目的で設定した。学級活動における様々な場面(日直の輪番と業務、学級組織と活動内容、教室の環境整備等)において、共通するものと学級裁量のものに分けている。そのことにより、学級の独自性も失われないよう配慮している。今後、実践しながら、よりよいものに改善していきたい。



5 終わりに

今、学校には、新しい時代を生きる子供たち一人一人の可能性を引き出し、未来の創り手となる力を育てることが求められている。私は、そのためには何より、「居場所づくり」と「絆づくり」が欠かせないと考える。学校が魅力的な場となるよう、より質の高い教育活動が展開されるよう、変化することを恐れず、実践に励み、そして、改善に努めていきたい。

## 文芸

## 「危機を乗り越えた先に」

七飯町立七飯中学校 細川和成

今年度で校長5年目、3校に務めさせていただいている。5年前といえば、未知のウィルスに世界中が恐怖し、全国一斉休校となる未曾有の危機に直面していた。私は、校長としてコロナ禍でデビューし、いきなり危機対応からスタートしたのである。管理職になりたての頃、恩師や先輩の多くが、「有事の際は、常に最悪のシナリオを用意せよ」と教えてくださったが、すでにその時が最悪のシナリオであった。

校長採用選考の準備では、論文作成や面接練習で、「こんな学校を創る」「〇〇する覚悟でのぞむ」など夢や希望を膨らませていたが、コロナ禍では空しくリセットされた。当時、連日の様に有名人の訃報が報道され、各地で感染者と死者数がトップニュースとなっていた。「第〇波」を示す感染者数のグラフは瞬間に大きな山となり、予測困難な感染拡大は、学校の安心・安全を根底から崩していた。勤めていた学校では、高齢者と同居している子供も珍しくなく、私を含め、高血圧など基礎疾患のある教職員もいる。そのような中、各学校では命がけの学校経営が行われていたのである。

町内で初のケースとなったのだが、自校の生徒が

「PCR検査」を受けることになったとの情報が入った。休休日だったので、公宅で待機しその結果を1日中待っていた。その間、教職員への伝え方、当該生徒の情報を守る方法、校舎内の消毒をどのように実施するのかなど、山のようにシミュレーションを繰り返し、やがて夕方を迎えた。結果の報告は「陰性」で、何とも言えない安堵感に包まれた。地方の小さな学校では「命優先」と言いながらも、風評被害や差別も看過できない状況であり、校長の判断が2次被害を起こしかねないという緊張感が続いていた。

「校長とはこんなにも孤独なものか」と出鼻をくじかれていた私を救ったのは、町教委事務局と町の校長会であった。百戦錬磨の行政もキャリアの長い先輩たちも過去に前例が無いため、互いに知恵を絞って難局を乗り切るといった一体感があり、大変心強かった。いわゆる「アフターコロナ」を実感したのは、昨年度の5月中旬からである。少々荒療治的ではあったが、危機を乗り越えた先にあったものは、校長として覚悟を決められるようになったことである。また、それを支えてくれた教頭をはじめ教職員の存在に気づき、自走する組織のありがたみを実感している。

## 文芸

## ヒーローの背後にある力～組織の神髄を探る～

浦幌町立上浦幌中学校 安齋亮太

9月20日(金)、大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手がメジャー史上初となるシーズン50本塁打、50盗塁の偉業を達成した。彼を形容する言葉は「ユニコーン」「人間ばなれ」「唯一無二」など様々あるが、次々とMLBの歴史を塗り替える大谷選手は、野球界のスーパーマンであり、言葉では表現しがたい存在であることはまちがいのない事実だ。

大谷選手のニュースの後、たまたまテレビで見たのがロボットアニメの名作「機動戦士ガンダム」だった。ガンダム世代の私は懐かしさもあり、思わず見入ってしまった。「君は生き延びることができるか?」というセリフで有名な「機動戦士ガンダム」も、思えばガンダムという圧倒的な強さのモビルスーツに、パイロットとして天才的な才能をもつアムロ・レイという少年が乗り込んで、次々と敵を倒していく物語だ。それはまるで一人で百人分の力を発揮する大谷選手とかぶって見えた。ともに期待以上に活躍する存在である。ただ、話はそんな簡単ではない。アムロたちが乗る軍艦ホワイトベースを修理したウッディ大尉は「ガンダム1機で戦争に勝てるほど甘くはない」とアムロをたしなめる。野球も9人でやるチームスポーツだ。大谷選手の人間離れた活躍に目が行きがちであるが

一人で試合に勝てるわけではない。彼もそれは十分に理解している。

うがった見方かもしれないが、ヒーローの存在は観客を魅了するが、その他大勢の活躍があってこそその組織だと思う。ガンダムという「量産型ジム」の活躍であり、野球では大谷選手以外の8人であり、相手チームの9人である。彼らの必死の働きとヒーローの活躍のバランスがドラマを作り出している。そう考えると組織の絶妙なバランスを生み出しているホワイトベースのブライト艦長やドジャースのロバーツ監督のマネジメント力こそ特筆に値するかもしれない。その他大勢が活躍する組織こそ、持続可能であり強い組織と言えるからだ。

学校という現場に目を向けてみるとどうだろう。ガンダムや大谷選手のようなスーパーヒーローもいろいろ。しかし、野球の9人にそれぞれの役割があるように、地味であるがみんなの精神的支柱となる存在、職場に広く人脈をもち、常に調整役として活躍してくれる存在、子供たちへのあふれる愛情でいつも笑顔を振りまいてくれる存在……そんな先生方が一人一人パズルを埋めてくれるおかげで「学校は生き延びることができる」と思うのである。



私の好きな漫画家の一人に寺沢武一さんがいる。旭川市出身。代表作は「コブラ」で、その漫画の登場人物はもちろん主人公の「コブラ」、相棒の「レディ」、宿敵の「クリスタル・ボーイ」である。その漫画の中で暗黒神となったクリスタル・ボーイとの戦いを終え、過去と未来の出会いを語るコブラにレディは「過去が吹っ切れた事であなたに怖い物がなくなった」と安堵するが、コブラは「いいやあひとつある……。思い出さ、すると一瞬の間を置いてレディの「思い出はこれから作るものよ」に続く。漫画にはよく名ゼリフと言われるものがあるが、この「思い出は残すものではなく、思い出は作るもの」が私にはとても印象深く好きだった。何もしないでも思い出は残るが、楽しい思い出にするためには、自ら思い出を作るもので、受動的ではなく能動的になる必要があるだろう。私は、卒業式など何かあるたびに、よく子供たちに話して聞かせたものだった。

さて、私が教員になったのは、37年前。その頃から見ると、今の学校教育はめまぐるしく変化をしてきたと感じる。土曜授業があり、教科も「生活科」が新しくでき、「総合的な学習の時間」そして、小学校での

## 「変化」すること

占冠村立トママ学校 長岡 勇樹

外国語活動や道徳が新しい教科となった。また、自然災害も阪神・淡路大震災、東日本大震災、胆振東部地震など、数えればきりが無い。新型コロナウイルス感染症にもずいぶん苦しめられた。また、私が教員になった頃はワープロの時代が始まりつつあったが、今は子供たちが一人一台端末を持つ時代で、授業風景もずっと変わってしまった。生き残るためには、自分自身も変化が必要であった。

ところで、私の占冠村への赴任は、3度目である。一般教諭、教頭、校長を経験した。また、小学校、小中学校、義務教育学校と三つの校種も経験した。その間、占冠村も大きく変わった。特にトママ地区に外国籍の方が多く住んでいることにびっくりした。当然、学校にも3カ国の外国籍の児童生徒が在籍している。様々な国の文化や生活様式があり、多様性を尊重しなければならぬ時代だと感じた。今後、多くの学校でますます外国籍の児童生徒が増えていこう。だからこそ、今まで身に付けてきた考え方ややり方を捨てて、新しい考え方ややり方を取り入れることが、今後必要だと痛感している。



今年度、本市教育の1丁目1番地は「子供たちの心理的安全性の確保」と「不登校・いじめ問題への適切な対応」である。

我が国には昔から命を大切にする美しい慣習がある。子供が生まれると、将来どうか丈夫な子に育ちますようにと、願いを込めて名前をつける「命名式」や「お食い初め」「お宮参り」などである。子孫に「清く、正しく、美しく」生きていってほしいという願いを込めた慣習が、伝統として引き継がれている。私たちは周囲の願いや想いをたくさん受けて生まれてきた。私はそのことを考えるとき、かけがえのない命と安心安全の大切さを痛感する。

そこで、私は以下の2つを拠りどころにしている。1つは、初代内閣安全保障室長・佐々淳行氏が謳う「ハンズ・オン・マネージャー」(＝苦痛を感じている方に感情移入し、初動で躊躇なく関与する)である。そして、私は自校の指針を○「迅速」な対応 ○「丁寧」な事実確認 ○子供たちの「納得」とする。中でも「迅速」は、学校の「最大の誠意」である。また、それら3つがそろうと信頼に変化していくはずである。これらにより、子供たちを守り、職員の疲弊や

## 本校教育の1丁目1番地

室蘭市立港北中学校 高田 裕之

問題長期化を避けられるよう努めている。

もう1つは、過去の部活動指導と現在の少年団指導(地域の小学生に野球を教えている)において、見える教育(技術や勝敗)だけではなく、見えない教育(心のコップの向き)を大事にしている。例えば、テーブルの上にコップがあり、そこに水を注ぐ。コップが上向いていれば、たくさん貯まるが、斜めになっていたり、逆さまになっていたりすると貯まらない。子供たちの心の状態もこれと同じである。私がどんなに想って指導しても、その子のコップが傾いていたり、伏せられていたりすると伝わらない。そこで、心のコップを上向きにするために鍵になるのは、○時間を守る ○整理整頓 ○周りの人の支え(感謝の気持ち)に気づかせることである。

まずは私自身、それらができているかどうか常に胸に手を置くとともに、子供たちへの情熱と職員への敬意をもち続ける。その上で、子供たちの安心安全を守りながら、昨年度制定された「室蘭市子ども未来指針」へ着実に取り組むことが、これまで長きにわたりお世話になっている本市に対する恩返しの手続きにもなると肝に銘じている。

## 前期情報

### ○道教委との意見交換会及び各課懇談会

道教委との意見交換会及び各課懇談会は、8月5日に会場で開催されました。

意見交換会は「働き方改革の推進について」をテーマに、北海道第二水産ビルを会場に開催。道教委からは中島教育長をはじめ、教育部長ら計14名が出席。道小・道中・道公教からはそれぞれの会長及び役員計42名が出席し、喫緊の課題についての意見交換ができて、とても有意義な会となりました。

続いて各課懇談会は、会場を「かでの2・7」に移し、道教委からは関係課の課長以下16名、道小・道中・道公教からは60名が出席し、三つの分科会に分かれ、各地区からの提言や、道教委担当課からの具体的な説明を聞くことができました。なお、詳細については「道小情報・道中だより号外」で報告します。各教育局に対する要望活動の際に資料として活用していただければと思います。

### ○地区別教育経営研究会

今年度は7月9日の十勝帯広地区を皮切りに、11月5日の旭川地区(小)まで、順次開催される予定です。今年度も、ほとんどの地区で参集しての開催となりました。開催した研修会には、道小・道中事務局より役員や幹事を派遣し、各地区からの質問に回答するほ

### 北海道中学校長会 事務局長 吉本将樹

か、各地区で講師を招いての研修、会員の実践発表や校種別、課題別分科会での研究協議を取り入れるなど、内容が充実してきております。

### ○第65回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会

9月27日、28日の二日間、帯広市民文化ホール、とかちプラザ、ホテル日航ノースランド帯広を会場に、全道から約320名の会員が参集し、開催されました。大会主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」に基づき「十勝の大地から新しい時代を生き抜き子供を育む 確かな学校経営の推進」を大会スローガンに、充実した大会になりました。

大会初日は、全日中の青海正会長による情勢報告の後、全日中提案概要説明があり、午後からは、五つの分科会が行われ、グループ協議が行われました。

二日目は、文部科学省講話、その後、田中学園立命館慶祥小学校理事長の田中賢介氏による「田中賢介は、なぜ学校を作ったのか?～プロの世界で学んだ『田中学園流マネジメント』～」と題した講演が行われました。大会全体を通して、今後の学校経営の改善に資する大きな成果を得た大会となりました。久保睦則委員長を中心に御尽力された、十勝小・中校長会及び帯広市校長会の皆様に心から感謝申し上げます。

## 道中事務局日誌

2024.7.1～9.30

月	日	曜	業務内容	時刻	場所
7	2	火	北海道学校給食研究協議会総会(鏡)	13:30	北海道学校給食会
	9	火	地区別教育経営研究会【十勝地区】(河村, 田丸, 松本(道小))	12:50	幕別町札内コミュニティプラザ
	11	木	道中研合同研修会 Web(五役, 研修部, 道中研(提言者, 司会者, 記録者, 運営委員), 専任職員)	13:30	自校, 事務所
	12	金	学校給食研究協議会第1回編集委員会(鏡)	14:00	北海道学校給食会
			学校保健審議会(山田)	15:00	道庁別館
	16	火	道教委・中島教育長への挨拶(五役)	10:00	道庁別館
			令和6年度第1回公立学校共済組合北海道支部運営審議会(伊藤)	15:00	ホテルライフオーフト札幌
	17	水	令和6年度第1回学力・体力向上推進会議 Web(山田)	13:30	自校
	19	金	第4回小中合同研修会(五役)	11:00	ホテルライフオーフト札幌
			小中合同事務局研修会・学習会(五役, 幹事, 専任職員, 道小事務局)	13:00	ホテルライフオーフト札幌
	26	金	全日中第1回副会長会 Web(河村)	14:00	自校
	30	火	地区別教育経営研究会【旭川中地区】(伊藤, 小田嶋)	10:00	旭川市大雪クリスタルホール
			北海道学校給食研究協議会 学校部会総会・研修会(鏡)	14:00	ホテルライフオーフト札幌
	31	水	地区別教育経営研究会【宗谷地区】 Web(山田, 北村, 高畑(道小))	13:15	自校
8	1	木	第74回全国小・中学校女性校長会全国研究協議会北海道大会開会式(河村)	13:00	京王プラザホテル札幌
			北海道養護教員研究大会開会式(吉本)	12:30	岩見沢市民会館・文化ホール
	3	土	第40回北海道の教育を考える会～札幌の集い～(高橋正)	14:00	ライフオーフト

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
8	5	月	道教委との意見交換会(五役, 柴田, 巖田, 後藤, 能戸, 小森, 福澤, 嶋本, 前田, 坂本, 鏡, 高橋泰, 道小会長他役員, 道公教会長他役員)	13:30	第二水産ビル
			道教委との各課懇談会(五役, 柴田, 巖田, 後藤, 能戸, 小森, 福澤, 嶋本, 細谷, 宮越屋, 中田, 増田, 藤田, 千葉, 前田, 坂本, 鏡, 北村, 寺嶋, 川原, 中井, 小泉, 小田嶋, 高橋泰, 宮田, 道小会長他役員, 道公教会長他役員)	15:00	かでの2・7
	6	火	地区別教育経営研究会【後志地区】(中井, 村上・丸岡(道小))	8:50	倶知安町ホテル第一会館
			地区別教育経営研究会【日高地区】(鏡, 丹野・西村(道小))	9:30	新ひだか町公民館
			地区別教育経営研究会【小樽市地区】(伊藤, 坂本, 渡辺(道小))	13:00	小樽市ジブラルタル生命ビル
			地区別教育経営研究会【上川地区】(高橋, 寺嶋, 下山(道小))	13:00	東川町東川農業改良センター
	7	水	男女平等参画審議会(田丸)	13:00	第二水産ビル
	9	金	第1回北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議幹事会 Web(小田嶋)	15:00	自校
	19	月	北海道教員育成協議会(山田)	13:30	第二水産ビル
	20	火	第5回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
	20	火	道教委教育政策課への訪問(五役)	13:00	道教委
	21	水	第2回五役研修会 Web(五役, 各部署副部長, 専任職員)	10:30	各学校, 事務所
	23	金	地区別教育経営研究会【根室地区】(前田, 田邊・山田(道小))	9:00	中標津町トーヨーグランドホテル
	26	月	女性教職員活躍推進会議 Web(山田)	13:30	自校
	27	火	夜間中学等に関する協議会(伊藤)	10:00	道庁別館
	28	水	地区別教育経営研究会【釧路・釧路市地区】 Web(高橋泰, 田邊・田中(道小))	13:00	自校
	29	木	地区別教育経営研究会【胆振地区】(山田, 川原, 八田(道小))	10:00	登別市民会館
	30	金	第5回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ホテルライフオーソ札幌
	31	土	道P役員会・正副委員会(寺嶋)	13:30	ポールスター札幌
9	3	火	第2回北海道環境教育等推進協議会(高橋泰) Web	13:00	東明中学校
			北海道教育フォーラム第1回パネリスト打合せ(河村)	15:00	かでの2・7
	4	水	第29期北海道産業教育審議会 第2回審議会(高橋正)	9:30	第二水産ビル
	5	木	北海道がん教育等外部講師連携支援事業連絡協議会(高橋泰) Web	10:00	東明中学校
	6	金	北海道青少年育成大会「少年の主張 全道大会」(鏡)	10:00	かでの2・7
	13	金	第67回北海道小学校長会教育研究会空知・岩見沢大会開会式(河村)	9:25	岩見沢市民会館・文化ホール
	18	水	第3回副会長研修会(五役, 副会長, 専任職員) Web	14:15	各学校, 事務所
			第3回理事研修会(五役, 副会長, 地区理事, 幹事, 専任職員) Web	15:00	各学校, 事務所
	19	木	北海道教育の日 第2回幹事会(三浦, 高橋正)	15:00	ホテルライフオーソ札幌
	20	金	北海道公立学校教頭会研究大会渡島大会開会式(後藤)	9:50	北斗市総合文化センター「かなでー」
	24	火	特別免許状授与事務第1回審査に係る特別免許状検定協議会(山田) Web	9:00	自校
			地区別教育経営研究会【渡島・函館市地区】(高橋正・北村, 岩村(道小))	14:00	函館市民会館小ホール
	25	水	地区別教育経営研究会【留萌地区】(小田嶋, 村上・高梨(道小))	10:00	苫前地区コミュニティセンター
26	木	第65回北海道中学校長会研究会十勝・帯広大会【前日準備, 各リハーサル】	14:00	帯広市民文化ホール, とちちプラザ, ホテル日航ノースランド帯広	
27	金	第65回北海道中学校長会研究会十勝・帯広大会【開会式, 教育情勢報告, 全日中提案概要説明, 分科会】	9:30	帯広市民文化ホール, とちちプラザ, ホテル日航ノースランド帯広	
28	土	第65回北海道中学校長会研究会十勝・帯広大会【文部科学省講話, 記念講演, 閉会式】	9:00	帯広市民文化ホール	

発行者 会長 河村 克也 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

敷島プラザビル4F

北海道中学校長会

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道中情報部 <http://www.dochu-kochokai.jp/>